

「コンダクター型災害保健医療人材の養成プログラム」災害派遣セミナーを開催しました (2022/1/8)

テーマ：新型コロナウイルス感染症、精神科クラスター対応、災害派遣、受援
場 所：東北大学災害科学国際研究所（宮城県仙台市）

2022年1月8日（土）、宮城県仙台市の東北大学災害科学国際研究所で「コンダクター型災害保健医療人材の養成プログラム」災害派遣セミナー（ハイブリッド型）を実施しました。県内外の保健医療従事者（医師、歯科医師、看護師、薬剤師、放射線技師、事務職員）、行政職員ら合わせて25名が受講しました。実習コーディネーターを務める佐々木宏之准教授（災害医療国際協力学分野）が会場責任者として実習運営にあたりました。

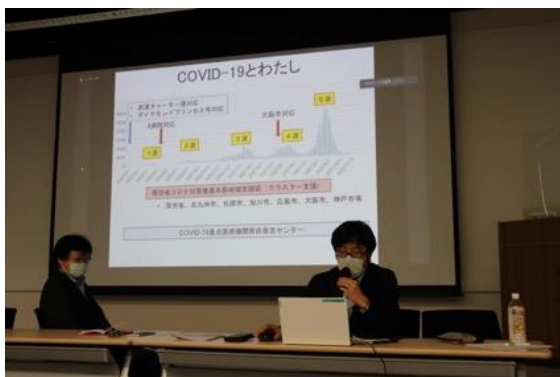
新型コロナウイルス感染症流行の第4波、第5波においては、様々な病院、高齢者施設においてクラスターが発生しました。とくに精神科病院、高齢者施設でのクラスター発生は、原病加療に加えて感染管理が必要となり、病院支受援においてはよりきめ細やかな配慮が求められました。今回はコロナ禍で精神科病院支援に従事した医療従事者が講師となり、現在大流行のきざしを見せ始めている第6波対応でも参考となる活動を紹介しました。富田博秋教授（災害精神医学分野）が宮城県での対応と体制について、松田宏樹医師（DMAT事務局）、矢津田善仁鍼灸師（日本鍼灸師会）が愛媛県での病院支援について、矢嶋祐一医師（DMAT事務局）、奥浜伸一看護師（琉球病院）が沖縄県での病院支受援について30分ずつ講義し、最後に小早川義貴医師（DMAT事務局）が司会となり総合討論を行いました。感染による職員数減少、原疾患＋感染管理の難しさ、DPAT（災害派遣精神医療チーム）活動、クラスター発生病院への早期介入の重要性、病院支受援に関する諸課題など、幅広い課題について活発な質疑応答が行われました。



ハイブリッド型研修
会場（当研究所）ではホールを広く使って講演



オンラインで講演する災害精神医学分野
富田博秋教授



愛媛県や沖縄県での病院支援について解説する
松田宏樹医師（DMAT事務局）



得られた知見から新型コロナ第6波に向け
対策を討議する現地講師陣とプログラム履修生